

コミュニティ開発 ハボロネ 平成 26 年度 4 次隊

2015 年 3 月よりボツワナの環境保護に取り組む NGO ソマラン・ティコロホで活動をしています、平瀬千登世です。この記事では、私の活動と、ボツワナでの生活についてご紹介をしたいと思います。

・活動について

私の配属先である NGO ソマラン・ティコロホ（以下 ST）は現地語であるセツワナで Environmental Watching という意味を持っています。1992 年よりボツワナでリサイクルの推進やコミュニティレベルで人々の環境への関心を高めるため、首都ハボロネを拠点に、地域に根差した活動を行っています。

団体の取り組みは、前任者の記事にも詳しいので、そちらもご参照ください→[こちら](#)

ST への青年海外協力隊員の派遣は、私で四人目になります。過去に派遣されたボランティアは主に、環境教育などの活動を行っていましたが、私は会計管理などを中心に組織の運営そのものをサポートする業務を中心に担っています。

また、職場内に併設される、同任地の協力隊員らの協力を得て、リサイクルクラフトやオーガニック食品などを販売する売店の商品のリパッケージや販促ツールの作成、広報媒体の作成なども行っています。



*職場での打ち合わせの様子



*職場内リサイクルステーションでの仕分け作業



*売店の様子



*同任地隊員らの協力を得て陳列、パッケージを工夫

・生活について

ボツワナでの生活は、私自身首都で生活しているということもあり、日本にいるみなさんが想像するよりも、ずっと快適なものだと思います。ボツワナは世界有数のダイヤモンド産出国であり、そこから得た資金を政府が適切にインフラや国民の教育や医療に投資をしているため、人々の生活水準も総じて高く、不便らしい不便はこれと言って感じたことはありません。

日本と大きく異なると感じる点については、人と人の距離の近さです。日本ではすれ違いざまに知らない人に挨拶をすることはまずないと思いますが、ボツワナでは、誰でも、気軽に、道で出会った人と会話を交わします。また国民の多くはキリスト教徒ですが、教会でのお祈りは日本で想像していたような静かで厳かなものではなく、エレキギターとドラムで大音量の音楽を流す非常にぎやかなものです。このように、予期しないところで文化の違いに驚かされることはありますが、友好的なボツワナの人々の性質と、雄大な自然、豊かな文化に触れながら、日々楽しく過ごしています。



*ボツワナの典型的な食事



*結婚式は基本野外で踊り明かします。入場行進の様子。



*旅行先で見たゾウの群れ



*教会でのライブの様子